

『英和対訳袖珍辞書』の訳語に関する一考察

——メドハーストの『華英字典』との関係——

呉 美 慧

始めに

一、『袖珍辞書』と蘭和辞書の訳語関係

二、『袖珍辞書』とメドハーストの『華英字典』の訳語関係

三、『袖珍辞書』『華英字典』と『和蘭字彙』の訳語関係

四、『袖珍辞書』と『華英字典』の一致した訳語の性質

終わりに

補注

主要参考資料

始めに

幕府末年、洋書調所の教官堀達之助らによって編纂された『英和対訳袖珍辞書』は日本最初の刊本英和辞書として、文久二年（一八六二年）に出版された。同辞書（以下『袖珍辞書』と略称）が日本の英和辞書の先驅となり、何回も再版、類書が出され、明治期の英和辞書に大きな影響を与えたことは周知の事実である。

これが編纂される際には、長崎系蘭和辞書、とくに和蘭字彙が大いに利用され、その中から数多くの訳語が取り入れられたことは、森岡健二氏と田島尚子氏の研究（『蘭和辞典の英和辞典に及ぼせる影響』蘭学資料研究会『研究報告』第一七四号）によって明らかにされてきた。しかし、一方、二氏の研究は『和蘭字彙』（桂川甫周編 一八五五——五八年）と『改正増補訳鍵』（広田憲寛 一八五七年）を中心に行われたものである。従って、この研究の結果は『袖珍辞書』と蘭和辞書の訳語関係を明らかにしているが、その他の系統の辞書との係わりは示していない。そこで、本稿ではもう一つの角度、すなわち、『袖珍辞書』と中国のメドハーストの『華英字典』との訳語関係から考察してみたい。

一、『袖珍辞書』と蘭和辞書の訳語関係

本稿の調査に入る前に、まず、ほかの学者の研究結果を参照しておきたい。

前述した森岡・田島二氏の研究「蘭和辞典の英和辞典に及ぼせる影響」(前出、3頁・18頁)の一部を次に引用する。

英和对訳袖珍辞書から、乱数表によって見出語1660部を選び、和蘭字彙並びに増補訳鍵と、その訳語に於る影響関係を比較すると、次のようになる。

(四辞書における訳語の一覧表を略す。引用者注)

最後に、この1650の見出語の訳が、和蘭字彙から受けている影響をパーセンテージで示しておく次のようになる

○影響を受けていると考えられるもの

64%

○まったく異なる訳をつけているもの

5%

○和蘭字彙に見出語がなく、独自に訳しているもの

31%

上記の調査から、『袖珍辞書』の訳語が大きく『和蘭字彙』に依存している事実が明示された。しかし、それによって『袖珍辞書』の訳語の由来を全面的に推量できるかどうかは疑問である。すなわち、『袖珍辞書』に利用された辞書は『和蘭字彙』のほかにあるか否かを究明しなければ、『和蘭字彙』に見出し語のない31%の訳語が「独自に訳しているもの」と断言できないだろう。そこで、筆者は『袖珍辞書』が『和蘭字彙』のほかに、中国の英華辞書を参考にし、訳語の設定に影響を受けたかどうかを検討したい。

二、『袖珍辞書』とメドハーストの『華英字典』の訳語関係

在華の西洋人宣教師の手による英華・華英辞典の編纂及び出版が日本の英和辞書より約半世紀早く始まった。中国最初の英華・華英対訳辞書は一八一五年から二三年にかけて、イギリス人の宣教師ロバート・モリソン(Robert Morrison 漢訳名 馬礼遜 一七八二——一八三四年)によって出版されて以来、英華・華英辞書が陸続と世に出された。『袖珍辞書』が出版された文久二年(一八六二)まで中国で出版された英華字典や語彙集は筆者の知っている範囲では、少なくとも十一冊ほどである。しかし、それらの辞書は、その題名、例えば『廣東省土話字彙』『English and Chinese Vocabulary the letter in the Canton Dialect』『翻譯英華厦腔語彙』『英粵字典』などからも分るように、中国南方とくに廣東省と福建省の地方方言を中心とする語彙集が多くある。その中に、辞書の内容形式収録語数などから見て、比較的に英華辞書らしいと言えるものは、モリソンの『英華・英華字典』の第六冊目(“A Dictionary of the Chinese Language, in three parts, Part the third English and Chinese” 1822 Macao)^{スウェルズ・ウィリアムズ}、スウェルズ・ウィリアムズの『英華韻府歷階』(Swells Williams “An English and Chinese Vocabulary in the court Dialect” 1844 Macao) ^{スウェルズ・ウィリアムズ}、ワルター・ヘンリー・メドハーストの『華英字典』(Walter Henry Medhurst “English and Chinese Dictionary” 1847-48 Shanghai)

である。この三冊の中、とくにメドハーストのものが質量とも一番完備され、早期の英華辞書の代表作として重要な役割を果たしている。なお、同辞書の題名は英語名だけがタイトルページに出ているので、正式な中国名ははっきりわからない。だが、點石齋出版の『華英字典』（一八七九 上海）の序文に

本齋初見英國墨黑士先生三十五年前所著華英字典一冊而愛之

……

とあることから、本書の中国名は『華英字典』と付けられていたのではないかと推測できよう。最も、初期の英華辞書はその内容は英語に対する中国語訳のもの、すなわち英華であつても華英と付けられている例がよく見える。例えば、子卿の『華英通語』（一八五五 廣東）、鄭其照の『華英字典集成』（一八七五 ホンコン）Tom tat hin の『華英字典彙集』（一八七五 ホンコン）梁述之の『華英字典』（一八七八 廣東）點石齋の『華英字典』（一八七九 上海）など、いずれも華英と名付けられる英華字典である。その原因ははっきり分らないが、恐らくは、西洋排斥の社会風潮が高まっていた十九世紀には、辞書の内容よりも民族意識が優先に配慮されたために、故意に「華」を「英」の前に付けたのではないかと推測される。いずれにしても、便宜のため、本稿ではメドハーストの英華字典を點石齋の序文に従つて、『華英字典』と名づける。

在華の西洋人宣教師が苦心して編纂した英華、華英字典は当時の中国の学界よりも日本の洋学界に重宝され、日本の蘭和・英和

辞書の編纂に欠かせぬ役目を果たした。英華辞書の利用は明治時代の英和辞書の重要な編纂手法であることは言うまでもない。江戸時代の蘭学者にも大いに参考になったことは学者の研究によって明らかにされている。杉本つとむ氏は『日本英語文化史の研究』（一九八五 八坂書房）第七章「文明開化と英和・和英辞書の編集（英華字典と翻訳）」（445頁）で次のように指摘している。

R・モリソン Morrison のもの、たとえば、「五車韻府」は幕末の蘭学者の座右の書として、彼等の備忘ノートによくみられるものである。また、長崎蘭通詞吉雄権之助がヘモリソンの字典によって英和辞書の訳編をこころみたという点も知られている。（略）こうして、江戸時代から英華字典は日本人が蘭書などの翻訳にも利用していたのである。「モリソン英華字典」について、メドハーストの「英華字典」も江戸時代に用いられ、明治にはいつて復刻版が刊行されている。

なお、この方面について、杉本氏の『江戸時代 蘭語学の成立とその展開』の第二部「長崎通詞による蘭語の学習とその研究」、第三部「対訳語彙集および辞典の編集」などに詳しい考察がなされているので、参照されたい。

英華・華英字典は江戸時代にすでに蘭通詞に利用されたことは疑いのない事実である。それで、「袖珍辞書」の編纂された際にも英華字典の影響を受けたか否かを本稿ではメドハーストの『華英字典』を中心に、両書の訳語を比較しながら、検討していきたい。

『袖珍辞書』と『華英字典』の訳語関係を明らかにするために、筆者は次の調査を行った。調査の方法は『華英字典』から約30語おきに五百個の見出し語を抽出し、『袖珍辞書』にある同見出し語を取り出して、比べることにした。調査の結果は次の如くである。

『袖珍辞書』にない語、品詞の違う語、または比較にふさわしくない語を除外して、全部で四百七十四個の見出し語、八百七十個の訳語を得た。その中で両辞書が一致しているものをA類、酷似しているものをB類に分けた。下記の例は↓の上の方は『華英字典』で、下の方は『袖珍辞書』の訳語である。

A類語 『華英字典』とまったく同じ訳語、および「周回」→「周回ニ」、「多言」→「多言スル」、「不幸」→「不幸ナル」、「伶俐」→「伶俐ナル」などのような同一視できる訳語は五十九語（見出し語が五十七語）ある。

B類語 語形が違っているが、極めて類似している訳語。例、「命召」→「召命」、「好留客的」→「好ンデ客ヲ留ル」、「間諜」→「間諜者」、「有兆先見」→「先見スル」等のようにその影響を受けたと考えられるものは二十九語（見出し語は二十六語）ある。

A類語とB類語を合計して八十八語になり、調査対象の語彙の十・一％である。ここまでの調査から『袖珍辞書』の訳語が『華英字典』と大いなる関係があることが明らかである。しかし、一方、森岡氏らの調査によれば、『袖珍辞書』の訳語の六十四％は

その底本とした『和蘭字彙』の影響を受けたものである。従って、『袖珍辞書』が『華英字典』と一致、類似した語は『和蘭字彙』でどのように訳されているかも調べなければならない。

三、『袖珍辞書』『華英字典』と『和蘭字彙』の

訳語関係

『袖珍辞書』は英和辞書で、『和蘭字彙』は蘭和辞書であるが、『袖珍辞書』は H. Picard の『A New Pocket of English-Dutch and Dutch-English Languages』の英蘭の部を媒介として、『和蘭字彙』の訳語を取り入れたのである。それ故、『華英字典』『袖珍辞書』『和蘭字彙』の訳語関係を探究するために、筆者は H. Picard の英蘭・蘭英字典（再版、東京大学所蔵）の英蘭の部のオランダ訳語を媒介として、『和蘭字彙』の訳語を見出す作業をした。ここで前述した『袖珍辞書』と『華英字典』の訳語のまったく一致しているA類と酷似しているB類を分け、『和蘭字彙』の訳語と対照してみる。さらにA類を

- (1) 『華英字典』『袖珍辞書』『和蘭字彙』の訳語が一致しているもの
- (2) 『華英字典』『袖珍辞書』のみ、その訳語が一致しているもの

の二つに、B類を

(1) 『華英字典』『袖珍辞書』『和蘭字彙』の訳語が酷似しているもの

『華英字典』『袖珍辞書』と『和蘭字彙』の訳語対照一覧表

A(1)『華英字典』『袖珍辞書』と『和蘭字彙』の訳語が一致しているもの

見出し語	華英字典	袖珍辞書	英蘭蘭英字典	和蘭字彙
askance	斜	斜ニ	schuins	斜ナル
avail	利益	利益	nut	利益
ballad	歌	歌	lied	歌
barley	大麥	大麥ノ類	gerst	大麥
benefit	利益	利益	nut	利益
blab	多言	多言スル	snappen	多言スル
blast	疾風	疾風	rukwind	疾風
bull	牡牛	牡牛	stier	牡牛 金牛
calamitous	不幸	不幸ナル	rampspoedig	不幸ナル
camphire	樟腦	樟腦	kamfer	樟腦
cloak	外套	外套	mantel	外套又合羽
criminal	罪人	罪人	misdaadiyer	罪人
features	容貌	容貌	gelaat	容貌
heel	踵	踵	hiel	踵 フトフツ
journal	日記	日記	journaal	日記
magnumimous	大量	大量ナル	grootmoedig	大膽ナル又大量ナル
malefactor	罪人	罪人	misdadiger	罪人
perspicacious	伶俐	伶俐ナル	schrande	伶俐ナル又賢キ
poison	毒	毒	vergift	毒
preach	説法	説法スル	prediken	説法スル
prohibition	禁制	禁制	verbod	禁制
reflect	反照	返照	weêrschijnen	反照スル
sir	君	君	heer	君

(2)『華英字典』と『袖珍辞書』のみ、その訳語が一致しているもの

見出し語	華英字典	袖珍辞書	英蘭蘭英字典	和蘭字彙
arbiter	断訟之人	断訟スル人	acheidsregter	喧嘩ヲ引分クル人
around	周圍	周圍ニ	rondom	グルリト
artifice	詭計	詭計	kunstgreep	偽計
avoid	避	避ケル	vermijden	×
burdensome	煩	煩ハシキ	lastig	退屈シ果タス
car	兵車	兵車	kar	輪ノ二ツアル車
			wagen	四ツ輪ノアル車
cleave	黏着	粘着スル	kloven	皸
			splijten	割ル又裂ク
			clave	×
			cleft	×

communication	消息	消息	clove	×
			mededeeling	スソワケスル事 又嘶ンテ聞カス ル事
			mondeling	ロツギノ又ロツ ギニテ
conquer	勝	勝ツ	gesprk	説話
creation	創造	創造	veroveren	奪ヒ取ル
			schepping	製作, 造物者ノ
cunning	狡猾	狡猾	aanstelling	×
			listig	^{タンベカリ} 偽計ノアル
			loss	×
			kundig	達シテ居ル
			ervaren	功ノ経テ居ル
dialect	土音	土音	tongval	×
			dialekt	×
			stijl	×
difficult	難	難キ	moeijelijk	×
distinguish	區別	區別スル	onderscheiden	分チヲ付ル
drawing-room	客廳	客廳	gezelschapskamer	×
dynasty	朝	朝	reeks	引キ續キ
			stam	末葉
			vorsten	×
elbow	肘	肘	elboog	×
			bogt	曲リ又ソリ
free	自由	自由ナル	openhartig	心ヲ打テアクル 又有体ナル
			opregt	廉直ナル又正キ
			nict	無
			karig	吝嗇ナル
			gemakkelijk	相應ナル又氣楽 ナル又容易ナル
			onbelemmerd	障リノナキ又妨 ケラレズニ居ル 又取乱サレズニ 居ル
gild	鍍金	鍍金スル	vergulden	金付クル又金箔 付クル
idea	想像	想像	dunkbeeld	觀想
			ontwerp	雛形又下地
judge	判断	判断スル	oordeelen	罪ヲ云付ル 思フ又心得ル 存寄ヲ言フ
			vonnissen	罰ヲ言ヒ渡ス事

motive	意思 起端 本心	意思 起端 本心	beoordeelen	×
knowledge	學問	學問	beweeegreden	物ヲ為 ^レ ヨウト云 次第
			kennis	了解
			kunde	術
			wetenschap	×
			geleerdheid	學ヒ
			lekendheid	×
measure	度量	度量	maat	尺度
			maatregel	手配リノ仕方
			deeler	分ル人
			faster	×
office	官職	官職	ambt	×
			dienst	勤メ又用達チ
			bediening	役目
			godsdiensioefening	×
			gebeden	拝シタ
			werk aats	×
			dienstbodenkamer	×
pistol	小銃	小銃	pistool	手筒
sapience	才智	才智	wijsheid	×
somebody	某人	某人	ilmand	或ル人又誰ゾ
regulation	法度	法度	regeling	(regel) 律儀 法則
			schikking	アラケカタ又整 ヘカタ
			inzetting	作リタチタルモ ノ
			instelling	作リタテタル物
soul	精神	精神	ziel	魂, 人
speech	説話	説話	spraak	言語・言葉ツキ
			taal	言葉
			redevoering	道理ノ述立
			aanspraak	言マヘ
spiritual	無形	無形ノ	geestelijk	形容ノナキ
galaxy	銀河	銀河	melkweg	天ノ川

B(1)『華英字典』『袖珍辞書』『和蘭字彙』の訳語が酷似しているもの

見出し語	華英字典	袖珍辞書	英蘭蘭英字典	和蘭字彙
awful	可敬可畏	恐ルベキ 敬 フベキ	ontzagwekkend	(ontzaggely)恐 レ敬フベキ
disquiet	不安	安カラヌヲ	onrustig	悶ユル又安カラ ヌ

excoriate	剥皮	皮ヲ剥ゲ	villen	皮剥ク
hassock	蒲團	膝蒲團	knielkussen	{kniel 膝 kussen 枕又腰 カケ蒲團}
lash	打鞭	鞭ウツ	qeeselen	鞭打ツ
obedient	順從	從順ナル	gehoorzaam	謙ル又吁嚙ナル 又畏ル又順從ナル
scandal	恥辱之語	恥辱	schande	恥辱

(2)『華英字典』と『袖珍辭書』のみ、その訳語が酷似しているもの

見出し語	華英字典	袖珍辭書	英蘭蘭英字典	和蘭字彙
anonymous	無名的	名無キ	neamloos	×
bode	有兆先見	先見スル	vorspellen	前表ヲ蹟ハス又 占フ
brick-dust	磚粉	磚ノ粉又屑	steengruis	小石ノ交リテ居 ル砂
call	命召	召命	reep	沙汰又噂
			geroep	叫ビ
			fluitje	小キ笛
causeless	無故	故ナキ	ongeground	取締ノナキ
			zonder	無シニ
			oorzaak	根本又起リ又緣 故
chintz	印花布	花布	sits	皿紗
cockloft	屋頂樓	家ノ頂樓	hanebalk	×
cool	涼爽	爽涼	koel	涼キ
drab	汚女	ヨゴレテ居ル 女	straathoer	辻君
			wollen	毛ノ
			loken	羅紗
ethics	修身齋家之箴 規	修身齊家ノ教	zedckund	義方
fiction	小説	小説モノ	verdichtsel	×
goldsmith	金匠	鑄金匠	goudsmid	金細工スル人
hale	康健	健康ナル	gezond	壮ニナル
			frisch	スウヤカ 勇健ナル
healthy	康健	健康ナル	gezond	壮ニナル
hesitate	疑狐	狐疑スル	aarzelen	×
			intwijfel	×
			staam	立ツ、ジットシ テ居ル、カタマ リテ居ル、ニア ルト云意、似合 フ價ノカ、ル

			haperen	行キツマリテ同 シ事ヲ幾度モ云
			stameren	吃ル
hospitable	好留客的	好 ^ン デ客ヲ留 ル	herbergzaam	寄宿 ^{サセ} タガル
	厚待遠客	旅人ヲ善ク取 扱フ	gastvrij	人ヲ我方ニ留置 テヨクモテナス
news	新聞	新聞紙	nieuwstijding	×
			berigt	説得知ラセ
sanguine	多血氣的	多血ナル	bloedrijk	血ノ多キ
			bloedrook	ウツクシキ赤色 ノ
			sterk	強キ
			vroeijk	面白キ又楽シキ
			levendig	活キテ居ル
			verig	×
shameless	無恥	恥ナキ	schaamteloos	遠慮 会釋ナキ
spy	間諜	間諜者	eespieder	目ヲ付クル人
			spion	間者

(2)『華英字典』と『袖珍辞書』のみ、その訳語が酷似しているもの
に分けることにした。

なお、上記の対照表で『×』の記号は当見出し語が『和蘭字彙』には見つからないことを示している。当見出し語が見つからないとき、それに近い語に()を付けて取りあげる場合がある。また、一つの英語の見出し語に対応するオランダ語の見出し語が多いが、本調査の目的は『袖珍辞書』の訳語の出処を調べることにあるので、三辞書の訳語が一致する場合は、一致した訳語とそのオランダ語の見出し語だけを取りあげて、そのほかのものは省略することにした。

前表に出ている通り、調査の結果はA類五十九個の訳語の中に二十三語、B類二十九語の中に七語は『和蘭字彙』と一致しているのである。三書が一致しているこの二十語を除外したら、『袖珍辞書』と『華英字典』のみ一致している語は五十八語で、六・六六%である。三書の訳語交渉の教値を図表で示せば、次頁の表の通りである。

『袖珍辞書』の訳語が『華英字典』と『和蘭字彙』の両方に一致している場合は、どちらによるかは判断しにくい。あるいは、両書とも一致している訳語こそ、『袖珍辞書』に一番取り入れられやすいものであるかも知れない。こういうわけで、『袖珍辞書』が『華英字典』から取り入れた訳語のパーセンテージが全書においてどのぐらいを占めているかを正確に割り出すことはできない

『華英』『袖珍』『和蘭』三書訳語関係数値図表

	『袖珍』と『華英』が一致している語			
	B		A	
	$\frac{29}{870}$ (3.33%)		$\frac{59}{870}$ (6.78%)	
合計	10.11%			
	『華英』『袖珍』のみ一致	『華英』『袖珍』『和蘭』が一致	『華英』『袖珍』のみ一致	『華英』『袖珍』『和蘭』が一致
	$\frac{22}{870}$ (2.52%)	$\frac{7}{870}$ (0.8%)	$\frac{36}{870}$ (4.13%)	$\frac{23}{870}$ (2.64%)
	『華英』『袖珍』のみ一致 A B類合計		『華英』『袖珍』『和蘭』三書一致、A B類合計	
合計	$\frac{58}{870}$ (6.66%)		$\frac{30}{870}$ = 3.44%	

が、『和蘭字彙』が考慮に入れられるか否かによって、六・六六%から十・一一%の間と考えてよからう。

四、『袖珍辞書』と『華英字典』の一致した訳語の性質

『袖珍辞書』が『華英字典』からどれほど訳語を取り入れたかは正確な数値が得られないが、上記の調査から同辞書が『華英字典』を利用したことが判明した。それは、単なる一致した訳語の数からばかりでなく、訳語の内容性質からも両辞書の影響がはっきり窺える。

訳語の性質から見れば、一致している語はほとんど抽象的な概念・意味を表す語である。中日の言語交渉の歴史が長いので、生産物・自然現象・用具物品・人間関係・動植物・身体器官……など昔からあるものの、若しくは基本的概念・情態を表す見出し語に対する漢訳語が、中日同じであっても偶然に一致した可能性が大きい。従って、例えば

「ballad 歌」 「barely 大麥」
「bull 牡牛」 「dynasty 朝」
「poison 毒」

などのような訳語の一致が中国訳を参考にした証拠としてはやや弱いものであろう。ところが、それに対して、新しい概念、または抽象的な物事、情態などを表す見出し語に対する漢訳語は、特に訳語がまだ固定していない草創期に、適切な漢語を設定するのは大変困難だったはずで、中日が偶然に一致する可能性は少ない。こういうわけで、例えば、

見出し語

華英

袖珍

arbitr

断訟之人

断訟スル人

artifice

詭計

詭計

cleave

黏着

黏着スル

communication

消息

消息

cunning

狡猾

狡猾

knowledge

學問

學問

regulation

法度

法度

sapience

才智

才智

などのような語の一致こそ、両辞書の影響関係を力強く語っているだろう。とくに

motive

意思 起端 本心

意思 起端 本心

ethics

修身齊家之箴規

修身齊家ノ教

hospitable

好留客の

好ンデ客ヲ留ル

hesitate

疑狐

狐疑

call

命召

召命

drab

汚女

ヨゴレテ居ル女

drawing-room

客廳

客廳

などの訳語の一致、酷似こそ、『袖珍辞書』が『華英字典』から訳語を採用したこと的有力な裏付になるだろう。

終わりに

以上の調査は『袖珍辞書』が『和蘭字彙』のほかに中国の英華字典

——メドハーストのもの——をも利用し、その影響を受けたことを明らかにしたものである。『華英字典』からの訳語の受け入れ度は『和蘭字彙』ほどではないが、とくに抽象的、概念的な意味を表す見出し語、または『和蘭字彙』に見出し語が見当たらない、あるいは説明的な文が見出し語の意を具体的に訳出できない……などの場合に、『華英字典』から中国訳語の力を求める傾向が見える。メドハーストの『華英字典』は質量とも初期の英華辞書の代表作であり、そして、『袖珍辞書』が日本で最初の刊本英和辞書であることから見ると、『袖珍辞書』と『華英字典』の接触は英和辞書と英華辞書の訳語交流史上の注目すべき接点であると思われる。たしかに、『袖珍辞書』以前の日本洋学の中心は蘭学であったので、『袖珍辞書』の訳語も大いに蘭語学の成果を継承した。しかし、一方で、『袖珍辞書』の時代には日本の洋学はすでに蘭学から英字へ移転していたのである。それに際して、日本の英和辞書の編纂も中国の英華辞書の力を求めてきた。『袖珍辞書』が『華英辞典』の訳語を借用した事実からも、日本の英語学が始めのころから中国の英語学と密接な関係を持っていると見えよう。最初の刊本英和辞書である『英和袖珍辞書』はこうして、日本の『和蘭字彙』と中国の『華英字典』の精髓から生み出されたものと言ってよからう。

『袖珍辞書』における『華英字典』の中国訳語の採用方針と具体的な手法、二書と『和蘭字彙』が一致した訳語の性質、『華英字典』のほかに『袖珍辞書』に影響を与えた英華字典があるか否

か……など究明されていない点が多い。本稿は両書の訳語の影響関係を明らかにする初歩的な考察に過ぎない。これらの問題を今後の課題として研究したいものと考えている。

注^一 一八二二年から一八六二年までの英華辞書及び語彙集は、次のようなものが見える。

1822 『A Dictionary of the Chinese Language, in three parts, part the third English and Chinese』 Robert Morrison Macao.

1828 『廣東省土話字彙』(『Vocabulary of the Canton Dialect』) Robert Morrison Macao.

1840 English and Chinese Vocabulary the letter in the Canton Dialect Robert Morrison Second Edition Calcutta.

1844 『英華韻府歷階』 An English and Chinese Vocabulary, in the court Dialect S. Wells Williams Macao.

1847-48 English and Chinese Dictionary Walter Henry Medhurst Shanghai.

1853 『翻譯英華廣設語彙』 Anglo-Chinese Manual with Romanized Colloquial with amoy Dialect.

1854 A Vocabulary with Colloquial phrase of the Canton Dialect S. W. Bonnoy Canton.

1855 『華英通語』 子卿

1855 『英華字典』 An English and Cantonese Pocket Dictionary, John Chalmers Hong kong.

1862 『英華字典』 An English and Cantonese Pocket-Dictionary. Second Edition John Chalmers Hong kong.

1862 『英語集全』 唐通樞 広東

主要参考資料

一、『英和对訳袖珍辞書』 堀達之助等編 洋書調所 一八六二年 早稲田大学所蔵。

二、『華英字典』(『English and Chinese Dictionary』) ノドハースト 上海 一八四七—四八年 東洋文庫所蔵。

三、『和蘭字彙』 桂川甫周編 杉本つとむ解説 早稲田大学出版部 一九七四年。

四、『A New Pocket of English-Dutch and Dutch-English Languages』 2nd edition H. Picard zalt-Bommel 1857 東京大学図書館所蔵。

五、『日本英語文化史の研究』 杉本つとむ 八坂書房・一九八五年。

六、『江戸時代蘭語学の成立とその展開 II 長崎通詞による蘭語の学習とその研究』 同 III『対訳語彙集および辞典の編集』 杉本つとむ 早稲田大学出版部 一九七五—一九七七年。

七、『日本翻訳語史の研究』 杉本つとむ 八坂書房 一九八三年。

八、『蘭和辞典の英和辞典に及ぼせる影響』 森岡健二、田島尚子 蘭学資料研究会『研究報告』第174号。

九、Henri Cordier『Bibliotheca Sinica XIII』(Paris 1904-1924)